

道徳通信

令和2年(2020年)7月30日

国立市立国立第七小学校

校長 大山 紀子

道徳担当 野間 大佑

第 1 号

早いもので、1学期末を迎えました。これまでに経験したことがない状況の中でも、七小の子供たちは、新しい生活様式に対応しながら生き生きと過ごすことができました。ご家庭のご理解とご協力の賜物であると感謝しています。ありがとうございました！いよいよ明後日からは、夏休みです。有意義な16日間となることを願っています。

さて、本通信は「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)について、保護者の皆様にも広く知っていただくことを目的としています。

「道徳科の授業ってどんなことをしているの？」

「道徳科を評価するってどういうこと？」

他の教科等と比べて、あまり知られていないと思われる道徳科について、実際の授業の様子などを通して、お伝えしていきます。今回は、学期末ということで、評価について取り上げます。不定期ではありますが、今後も発行していきますので、ぜひご覧ください。

「特別の教科 道徳」について

小学校においては、平成30年4月1日より「特別の教科 道徳」として全面実施されました。また、これまでの道徳の時間では副読本などを活用していましたが、教科化にともない、検定教科書が児童に配布され、教科書が主たる教材として用いるようになりました。



評価について

道徳の教科化にともなって、あゆみ(通知表)に文章として記載されるようになりました。道徳の評価といっても、道徳科の授業で道徳性が養われたかについて評価することは、容易に判断できるものではありません。また、それを数値化することも望ましくありません。

そこで、道徳性そのものを評価するのではなく、道徳性を養うために行われる学習活動において、児童がどのように学んでいるか、その学習状況及び成長の様子を継続的に見取り、あゆみで評価しています。また、この評価は、他の児童との比較によるものではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ますものとしています。



文章としては短いものではありませんが、他の教科等の評価と合わせて、道徳科の評価についても、お子さんと一緒にお読みいただくと幸いです。